

チャノココクモンハマキの「成虫期防除」

[研究のねらい]

- ・ハマキガ類(チャノココクモンハマキ及びチャハマキ)の防除適期は、通常、発蛾最盛日の7~10日後頃とされており、若齢幼虫期にあたる。
- ・この時期は、ハマキ剤の幼虫に対する殺虫活性が期待されるとともに、幼虫の体サイズが小さい若齢期の方が老齢期よりも薬剤感受性が高いことから決定されている。
- ・一方で、当センターのこれまでの研究から、ハマキ剤のうちジアミド系のエクシレルSE及びサムコルフロアブル10、スピノシン系のディアナSC及びスピノエースフロアブルの4剤が、チャノココクモンハマキの成虫に対して殺虫活性と産卵抑制効果を示すことが明らかになっている。
- ・そこで、ほ場におけるハマキガ類に対する成虫期防除の効果を明らかにするために、チャノココクモンハマキの成虫期にエクシレルSE及びディアナSCを散布し、慣行の幼虫期防除との効果を比較した。

[研究の成果]

- ・エクシレルSEについては、成虫期防除区の防除率は73.1%であり、幼虫期防除区の1.2%と比較して効果が高かった(図1)。
- ・ディアナSCについては、成虫期防除区の防除率は68.4%(×2500)及び86.0%(×5000)であり、幼虫期防除区の59.6%(×2500)及び23.4%(×5000)と比較して、いずれも効果が高かった(図2)。
- ・これまでハマキガ類の防除適期は発蛾最盛日7~10日頃とされてきたが、エクシレルSE(×2000)とディアナSC(×2500及び×5000)は、いずれも発蛾最盛日頃の成虫期防除が慣行の幼虫期防除よりも有効だと考えられた。なお、成虫期防除は大面積で取り組むことでより高い効果が見込まれる。
- ・すべてのハマキ剤が成虫期防除に適するわけではないので注意する。成虫期防除に使用可能な薬剤は、エクシレルSE、サムコルフロアブル10、ディアナSC及びスピノエースフロアブルの計4剤(2017年2月現在)。
- ・チャノココクモンハマキの幼虫では、サムコルフロアブル10に対する抵抗性も確認されている。本剤に抵抗性を示す幼虫は、成虫でも同様に抵抗性となるため、成虫期防除には不適である。
- ・成虫期防除は第二世代成虫を対象に、7月下旬~8月上旬の三番茶生育期に実施する。越冬世代及び第一世代成虫期は、それぞれ一番茶及び二番茶の防除規制時期のため実施できない。

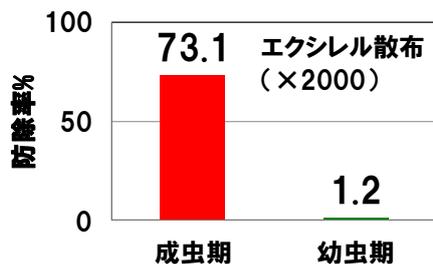


図1 エクシレル SE のチャノココクモンハマキに対する防除効果

注) 牧之原市布引原で試験実施

成虫期=発蛾最盛日2日後(2016.8.4)散布

幼虫期=発蛾最盛日10日後(2016.8.12)散布

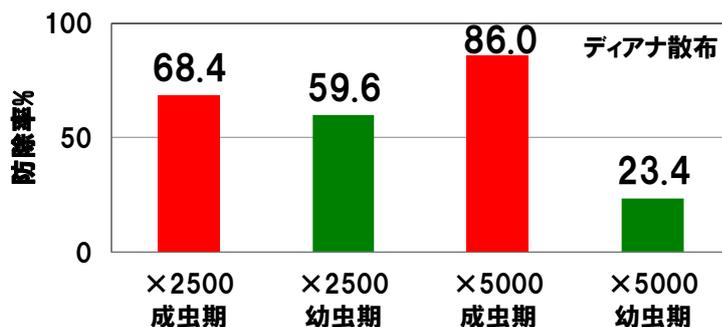


図2 ディアナ SC のチャノココクモンハマキに対する防除効果

注) 牧之原市布引原で試験実施

成虫期=発蛾最盛日2日後(2016.8.4)散布

幼虫期=発蛾最盛日10日後(2016.8.12)散布